

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 28 年 6 月 10 日)

衛霊公 第十五

【一八】子曰く、君子は能くすること無きを病う。人の己を知らざるを病えず。

国家をいつも考え、国を支える人物で、徳の高い人物は誰かを考えたときに、西郷隆盛がよいかと思います。西郷隆盛は自分がものをよく知らないから勉強する。ものを知らないということを感じ、沖永良部島に流された時には、柳行李にぎっしり本を積めて一所懸命よく本を読んで勉強し、よく考えたといいます。また、他人が自分を認めないことは、まるで氣にもしないという人物でした。

西郷隆盛で面白いと思う逸話は、人の家に氣楽にふらっと訪ねて行き、相手の人がいないと「ご主人がお帰りになるまで待たせていただきますよ」と言っ、玄関でゴロツと横になって高いびきで寝てしまう。そこにご主人が帰ってきたら、西郷隆盛が玄関先で横になっていると仰天をする。また当時、明治の元勳といわれていた人達は、たいがい馬車に乗って皇居に入りますが、西郷隆盛は自分の足で、とことこ歩いてやってくる。門番が止めて訊ねると「私は西郷吉之助だ」と言いますが、門番が「西郷閣下の名前を騙るとは、ここに立っておれ」と。立っていると後から馬車で来た人が西郷に「何故ここに立っているのですか」と聞く。西郷は「門番がここに立っておれと言うので立っている」と。門番は怒鳴りつけられますが、西郷は「私のことを知らないのは仕方がない。門番は自分の役目をしているのだから、そう怒るものではない」と。たまに下駄も履かないで素足で歩いて入ったという話も残っていますので、他人が自分のことを知らなくても、まるっきり氣にしないということが随所に残っています。凄い人だなと思います。

自分のことを考えてみると、どうでしょうか。よく聞く話で、大きい会社で創業者社長のことを守衛さんが知らなくても、創業者社長は氣にしないで待っているタイプが多いようですが、サラリーマン社長は「俺のことを知らないのか、けしからん」と怒鳴りつけて入っていくということがあります。同じ社長という人種は、創業者型の社長とサラリーマン型の社長では、まるっきり違います。自分で会社を起こした人は、そこら辺を讀んでいくとよかろうと思います。または周りに社長業をしている人に「君主は能くすること無きを病う。人の己を知らざるを病えず」を、教えてあげるとよいと感じます。

【一九】子曰く、君子は世を没えて名の称せられざることを疾くむ。

君子を大人物と考えますと、自分が死ぬまでに世間に名前が通らないということは、自

分がそれなりの仕事をしていないと思われてしまう。これが腹立たしいから、一生懸命自己修養に努めなければならないと、孔子が言っています。

これは政治家でいけばよいと思います。今風に考えて見ますと、石原慎太郎元都知事が田中角栄は天才であると思って書いた本がベストセラーで出ています。田中角栄が今をときめく時代に、石原慎太郎が青嵐会を作って反抗をした。お互いに丁々発止をやった人間だからこそ、田中角栄の素晴らしい能力・才能を認めている。このままだと田中角栄がもう復権しないまま世に埋もれて忘れ去られてしまうのは耐え難いという想いと同時に推測ですが、田中角栄をもう一度世に出して、出した人間は石原慎太郎だと、お互いがお互いを絡める。そういうことを腹の中において石原慎太郎は書いたのだろうと感じます。石原慎太郎は田中角栄を光らせることで光源になったと思うので、「君子は世を没えて名の称せられざることを疾くむ」は、石原慎太郎の頭の中であって田中角栄に光をあてたと思います。

【二〇】子曰く、君子は諸を己に求む。小人は諸を人に求む。

その次の君主を経済人で考えてみますと、渋沢栄一が「いにしへの学者は己のためにし、今の学者は人のためにする」とこの文を解釈し、この考え方を強烈に推奨しています。これもそっくり同じ意味になります。大経済人は経済で世に名を馳せた人は自分がいたらぬところをよく見る。小人物は他人に自分が認められないのは、他人が認めないからではないかと他人のせいにする。これは松下幸之助を考えれば良いと思います。松下幸之助は小学校卒でありあまり学んでいないから、人様からものを教わる。色々な学者や大経済人に頭を下げてものを聞き、教わることを続けていった。その結果として、名を世に残し、松下電器の示すべき先を残した。小さな経済人は逆をやるので、そうそう会社が続くものではないと感じます。

日経新聞が会社の社長 30 年寿命説をいっていますが、会社が 30 年経つともう終わる。30 年続くというのはめったに無い。100 年続く企業は凄いことです。

—三菱なんかは、どうですか。

三菱は戦後にできた会社。岩崎弥太郎が拵えたから、明治維新のときに坂本竜馬が金をふんだんに使い、その後始末を岩崎弥太郎がしました。坂本竜馬が使い残した金をベースにしながら、坂本竜馬のやり方を踏襲して伸ばし三菱になった。三菱は財閥の中では遅いです。三井・住友のほうがはるかに早い。金の作り方が上手だった。

日本の1千年企業は宮大工です。世界に197カ国の国があつて、民族は2千ある。部族といわれているものは200と言われていています。約72億人の人が暮らしている地球で、1千年企業といわれているものは日本しかないということがありますので、この結果、そういう物の考え方を松下幸之助は受け継いでいたのではないかと感じます。

会社を作ったり組織を作ったりしたら思うことですが、なるべく長寿の組織が良いなど感じます。小人が作ると早めに終焉を迎えることがあるようです。